

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	梯 滉太
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Clinical Outcomes of Full-Thickness Macular Holes with Epiretinal Proliferation without Posterior Vitreous Detachment (後部硝子体剥離を伴わない網膜前増殖を伴う全層黄斑円孔の臨床転機)
	掲載誌 Medicina. 2025:1975.
	主査 曾根 正勝 副査 高砂 浩史 副査 横田 健一
[論文の要旨・価値] 黄斑円孔（Macular Hole: MH）は、黄斑部網膜の中心窩部分が欠損し、変視や視力低下をきたす疾患である。網膜前増殖（Epiretinal Proliferation: EP）は以前には分層 MH に特異的だと考えられていたが、比較的稀ではあるが全層 MH にも伴うことが報告されている。そこで、申請者らは、Stage2 の後部硝子体剥離を伴わない全層 MH において、EP 合併全層 MH（EP 群）5 例と、EP を認めない全層 MH（非 EP 群）32 例を後ろ向きに比較解析した。患者背景については、年齢・性別・眼軸長や円孔径・円孔底径においても有意差は認められなかった。網膜前膜（Epiretinal Membrane: ERM）の存在は、EP 群で全眼（100%）、非 EP 群で 9 眼（28%）と有意な差を認めた（$p=0.004$）。術後成績については、術後初回に円孔閉鎖が得られたのは EP 群で 3 眼（60%）、非 EP 群で全眼（100%）と有意差が認められ（$p=0.015$）、術後 6 ヶ月後のエリプソイド層（ellipsoid zone: EZ）の欠損も、EP 群で 3 眼（60%）、非 EP 群で 2 眼（6.3%）で有意差が認められた（$p=0.01$）。視力について、術前および術後 1 ヶ月・3 ヶ月・6 ヶ月を測定したところ、2 群間で各時点での有意差は認められなかったが、術前から 6 ヶ月までの改善量を比較したところ EP 群で有意に改善量が小さかった（$p=0.04$）。次に、非 EP 群で EPM の有無で追加解析を行ったが、EZ 欠損率や視力の改善量に有意な差を認めなかった。今回の結果から、後部硝子体剥離を伴わない全層 MH において、EP を伴う場合は術後の閉鎖率が低い可能性が示唆された。	
[審査概要] 主査、副査 2 名と陪席者のもとで審査が行われた。約 20 分間のプレゼンテーションでは、研究の前提となる硝子体・網膜の構造や OCT 像、実際の手術手技などが丁寧に示され、研究背景と目的、得られた結果とその意義について説明された。約 50 分間の質疑応答では、Stage2 の患者を選んだ理由、統計解析の手法、手術手技が結果に関係していた可能性、結果の解釈とその差が生じた理由などについて質問がなされ、概ね適切に回答された。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 申請者は、本研究と関連領域に關しての必要な専門的知識を有しており、疾患の病態、研究の着想に至った経緯や研究目的についても十分な説明が行われた。研究発表、質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、礼儀正しく、研究に対する熱意も感じられた。英語読解力は指定された引用文献の要旨をその場で和訳し、一定の読解力があると判断した。以上より、梯滉太君は学位授与に値すると評価した。	